



令和2年5月26日火曜日 第10127号

目次

◎アジア石化市況、エチレンは中国回復と定修で市況上昇……………二	
◎WTI原油三十三・二五ドル、国産ナフサ二万四千九百円……………三	
◎原油・ナフサ価格の推移(表)……………三	
◎日本化学会、小林新会長『化学の力で世界的課題を解決』……………三	
◎昭和電工、大分コンビナートが日化協安全最優秀賞を受賞……………四	
◎出光興産、生物防除剤を新発売、野菜類の害虫防除に貢献……………四	
◎中外、コロナの抗体医薬品、A*STARと共同研究開始……………五	
◎NIMSと産総研、エチレン高感度・高選択モニタリング……………五	
◎JXTGグループ/組織改正(六月二十五日)……………六	
◎旭化成関連・役員人事(六月一日/他)……………六	
◎JXTGグループ・役員人事②(六月二十五日)……………六	
◎世界のナフサ、オレフィンスポット価格動向(表)……………七	
◎世界のBTX・SM・PHスポット価格動向(表)……………八	

☆旭化成、中計進捗、住宅・ヘルスクエアが収益貢献

小堀社長『現状を革新の機会として持続的成長に』

旭化成は二十五日、中期経営計画「Cst+(プラス) tomorrow 2021」(二〇一九〜二一年度)の進捗についてオンラインによる説明会を開催した。小堀秀毅社長は、『新型コロナウイルスの影響により先行きを見通すのは難しい状況だ。中計の基本的な考え方は堅持しながら現在を社会全体としての革新の機会と捉え、大きな変化に対して自発的に向上し持続的成長につなげていく』との考えを示した。目指す姿へ向けて前進するため、三つの視点の取り組みを推進。①財務規律の徹底では、投資案件については投資効率を重視し、厳選された投資案件のみにフォーカス、②体質強化では、既存投資案件のリターン最大化、低収益事業の構造改善などを通じてポートフォリオ転換を加速、③将来変化に向けた変革推進では、サステナビリティ貢献により重点を置き、新型コロナウイルスにより生まれる新しいニーズや行動変化に先手を打つことで中長期的な成長につなげる、とした。昨年度の業績は、中国市場の成長鈍化などにより減収減益となり、今年度についてもコロナ禍のため合理的な予想が困難としている。ただ、リーマンショック前と昨年度の利益構成の比較では、住宅領域とヘルスクエア領域が利益率・利益額とも大きく伸長し、それぞれ四分の一の利益に成長。リーマン時に比べてもより景気変動に強い収益体質に変化している。中計最終年度の計画見直しについては『数値目標を白紙にするつもりはない』としたが、『マテリアル領域は、EBITDA率の改善が少なく、

二〇二一年度の目標に対しハードルが高くなってきた。ポートフォリオ転換を含めた事業のさらなる高付加価値化を目指している。『と語った。続いて成長戦略の進捗を説明した。長期投資については、昨年度は米・製薬会社ベロキス社を買収するなど四千億円以上の意思決定を行った。ただ、今後については、『アフターコロナの需要変化を見ながら、投資計画を見直している』とし、サステナビリティ貢献や生産性向上につながる投資、イノベーション実現や事業成長が高く見込める分野に厳選して検討していく考えだ。続いて、五つの価値提供注力分野（モビリティ、ヘルスケア、ホーム&リビング、ライフマテリアル、環境&エネルギー）の経営環境の見通しを説明。短中期では、コロナ影響によりモビリティや衣料向け繊維は需要減退になるものの、ヘルスケアやライフマテリアル（電子材料、消費財、ヘルスケア材料）は、相対的に需要は堅調であり、さらには成長の機会が生じてくるとの期待を示した。また、中長期の市場の構造変化として、クリティカル領域や衛生材料などの分野で新しい価値提供の機会や、ニューノーマル（新常态）による新しいライフワークスタイルのニーズが生まれてくると指摘した。こうした中、戦略として、ヘルスケア領域は資源投入で成長を加速し、クリティカル領域のさらなる深耕、北米展開の推進で第三の柱を目指す。電子材料などライフマテリアルは、新しいライフスタイルへの転換などによる新たなニーズへ革新素材／ソリューションを提供する。ホーム&リビングと環境&エネルギーでは生産性向上などで影響の低減を図りながら中計で掲げた成長戦略を保持・推進する。モビリティや繊維関連は、短中期では厳しい環境が予想されるが、構造変化をチャンスと捉え、高付加価値化へのポートフォリオ転換加速やマーケティング強化などの施策により、中期的な利益成長につながる考えだ。一方、経営の根幹となる多様な「C」による持続的成長への経営基盤強化は継続推進する。中でもニューノーマルでの従業員のための環境づくり（コミュニケーション）、事業高度化（チャレンジ）に重点的に取り組み、生産性向上による企業価値向上を引き続き目指していく。コミュニケーションでは、『重要なことは、義務感ではなくチームで一緒に働きたいということと従業員が感じることだ』とし、多様な働き方を実現する従業員との環境づくりを強化していく。チャレンジに向けたDXの推進では、生産性向上に加え事業戦略検討や新事業創出についても活用し、事業高度化につなげていく意向だ。最後に小堀社長は『コロナ禍を社会全体の革新の機会捉え、先手を取って行動する』とし、『「守り続けること」と「大きく変えていくべきこと」を見直す機会として、社会に価値を提供し続けるための事業ポートフォリオ転換を推進する』との意欲を示した。

☆アジア石化市況、エチレンは中国回復と定修で市況上昇
アジア地域の五月第一週の石化市況では、エチレンは、下値六五ドル高、上値八十ドル高の四百五十〜四百九十ドルでの取引となった。下値、上値とも四百ドル台となったのは四月第二週以来四週ぶり。誘導品需要が中国の経済活動再開により回復基調を強める中、

☆日本化学会、小林新会長『化学の力で世界的課題を解決』
日本化学会は二十五日、定時総会において、川合眞紀会長（分子科学研究所所長）の退任に伴い、三菱ケミカルホールディングスの小林喜光会長を新会長に選任した。同日、開催されたオンラインによる会長就任会見の中で小林新会長は『任期の二年間、日本化学会の一層の発展に尽力していく』と述べた。化学が果たすべき役割については、『社会では、グローバル化やデジタル化、ソーシャル化の中で、既成概念が覆されるような急激な変化が起きている。それに加えて、昨今のコロナウイルスの感染拡大に翻弄されている。感染症対策にはデジタル化が必要だが、日本では対応の遅れが白日の下に晒された。アフターコロナ社会でもデジタルベースのスマート化を進めていく必要がある』と訴えた。一方、『目の前には、長期的な

☆WTI原油三十三・二五ドル、国産ナフサ二万四千九百円
アメリカ・WTI原油価格は二十二日、バレル三十三・二五ドル
で取引された。ブレント三十五・一三ドル、ドバイ三十二・五六
ドル。C&Fジャパン・スポットナフサはトン二百八十九・八七五
ドル。プレミアム「十五ドル」、為替レート「百八円／ドル」で試算
した国産ナフサ価格は、~~k~~二万四千九百円。

ルと二週連続で上昇。ただスプレッドは、二百十九ドルに縮小した。トルエンは三十四ドル高の三百二十九ドルと大幅上昇。キシレンは十ドル高の三百八十六ドルとなった。需給バランスの改善に至っていないものの、中国市場の回復期待が価格を押し上げる要因となった。

原油・ナフサ価格の推移

		ナフサ [\$/MT]	原油 [\$/bbl]		
		MOPJ	WTI	BRENT	DUBAI
5月18日	月	284.875	31.82	34.81	32.96
5月19日	火	288.125	32.50	34.65	33.15
5月20日	水	290.375	33.49	35.75	32.94
5月21日	木	304.875	33.92	36.06	34.05
5月22日	金	289.875	33.25	35.13	32.56

アジア地域のクランク定修を見据え、需要家の引き合いが強まった。スプレッドも、ナフサ価格が三十九ドル上昇したものの、二十六ドル拡大の二百十五ドルと二百ドル台に改善した。プロピレンは、下値四十ドル高、上値十ドル高の七百七、七百二十ドルと一段高となった。マスクなど衛生材向けにポリプロピレン（PP）の需要の盛り上がりが続いている。ブタジエンは下値が三十ドル高、上値が三十ドル安の三百十、四百ドルでの取引となった。中国の自動車生産台数が戻ってきているものの、インドやASEAN地域の自動車生産は低迷しており、大きな動きが見られなかった。一方、芳族は、原油価格が上昇基調となったことから三製品とも価格が上昇した。ベンゼンは四十二ドル高の三百六十五ドルと三週ぶりの反転、スプレッドは三ドル拡大した。ただ、スチレンモノマー（SM）も、川下製品の需要が強く五百八十四ド

☆昭和電工、大分コンビナートが日化協安全最優秀賞を受賞
昭和電工はこのほど、大分コンビナートが日本化学工業協会による安全表彰において安全最優秀賞に選定された、と発表した。同賞は、化学業界の自主的な保安・安全衛生推進の一環として、優れた安全活動を実施し模範となる事業所を表彰する制度。同社は昨年の小山事業所に続く二年連続の受賞となり、大分コンビナートは二〇一〇年以来二回目の同賞受賞となった。大分コンビナートは、「無事故・無災害を目指し、安全をすべてに優先する」を方針のトップに掲げる。従業員一人ひとりが責任ある行動を実現する、すなわち「凡事徹底」を実践する人材を目指すとともに、同社従業員数を上回る協力会社関係者とも協働し、一体となつてO P S (T P M) 活動をはじめとする安全活動や設備保全活動、教育訓練、健康管理活動を推進。この結果、同コンビナートは無災害記録六百二十五万時間、無災害年数六年を継続、協力企業については十年以上休業災害ゼロを継続中。この一人ひとりの責任感の強さに基づく活動が、休業災害ゼロ実現の強力な推進力となり、コンビナート構成会社・協力会社が一枚岩となつた安全文化を確立していることなどが評価され、今回の受賞に至つた。同社グループは安全とコンプライアンスを基盤とし、経済的価値・社会的価値を創造することによる持続可能な社会への貢献を目指している。今後もグループ一丸となり安全に対するさらなる意識向上と活動の充実を図っていく考えだ。

— 4 —

除ける。同製品は、グループ会社の出光アグリ販売網を通じて全国の代理店に販売される。出光興産は今後も、環境にやさしい製品を開発、販売していく考えだ。

☆中外、コロナの抗体医薬品、A*STARと共同研究開始
中外製薬はこのほど、同社グループのシンガポール研究拠点である中外ファーマボディ・リサーチ（CPR）が、シンガポール科学技術研究庁（ASTAR）とともに、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）に対する抗体医薬品の共同研究を開始した、と発表した。共同研究は、ASTARの関連機関であるシンガポール免疫学ネットワーク（SIGN）を通じ、シニア主席研究員Cheng Wang博士の率いる研究チームにより見出だされた治療候補となりうる抗体に関するもの。リード抗体は多様性の高い人工ヒト抗体ライブラリから取得されており、COVID-19を引き起こすコロナウイルスに対する中和能を示している。CPRは、抗体研究に関する世界トップクラスの技術力を生かし、抗体の最適化を進め、独自の抗体エンジンニアリング技術を活用することで、開発候補抗体を作製する。中外製薬の奥田修社長COOは、『中外製薬は、イノベーションにより世界の医療と人々の健康に貢献することをミッションとしている。抗体研究は、我々のイノベーションの追求の中の柱であり、これまで革新的医薬品や独自の創薬技術を生み出してきた』とした上で、『新型コロナウイルスの流行は、人類が過去数十年に直面した様々な危機の中で、最も深刻な被害をもたらしている。ASTARと共に、世界中で進むこの脅威への対応の一助となるべく、一刻も早く臨床応用への可能性を拓くことを目指し尽力していく』と語った。なお、ASTARと中外製薬は、グローバルヘルス技術振興基金の助成の下、これまでにデング熱に対する共同研究プロジェクトを実施している。

☆NIMSと産総研、エチレン高感度・高選択モニタリング物質・材料研究機構（NIMS）と産業技術総合研究所（産総研）はこのほど、植物ホルモンであるエチレンを常時モニタリングできる小型センサを開発した。エチレンは野菜や果物の熟成を促進させるが、過剰にあると腐敗を進行させてしまう。同センサによってエチレンを常時モニタリングすることで、野菜や果物の最適な輸送・保存管理が可能となり、食べ頃の調整やフードロスの削減などが期待される。現在市販されているエチレン検出用小型センサの多くは、高温状態（二百〜三百℃）での駆動が必要であるため、センサ表面の活性は高く、アルコールやメタンといった他の還元性ガス分子とも反応してしまい、エチレンの選択的な検出が難しかった。同センサは、①エチレンを選択的にアセトアルデヒドに変換する高活性触媒（Pd、V2O5、TiO2）、②アセトアルデヒドと反応して酸性ガス（HCl）を発生する試薬（Wacker反応）、③酸性ガスを高感度に検出する単層カーボンナノチューブ（SWCNT）修飾の電極の三要素からなり、エチレンを選択的かつ繰り返し高感度で検出することに成功した。高活性触媒は、エチレンを

含む空気を通過させるだけでPPMレベルのエチレンをほぼ全てアセトアルデヒドに変換でき、繰り返し利用可能。低温（四十℃）で駆動するため、低消費電力である点でも小型センサに適している。発生した酸性ガスは、半導体SWCNTから電子を引き抜き、電気抵抗値を変化させる。その感度は、1PPMのエチレンに対して電流変化率約10%と世界最高レベルであり、わずか0.1PPMのエチレンを高選択的にモニタリングできる。例えば、バナナとキウイフルーツの熟成（追熟）に用いられるエチレンの濃度は、それぞれ約500PPMと約10PPMなので、同センサで十分に対応可能。また、産総研の持つ半導体SWCNTの分離精製技術により、僅か1gのSWCNTから数百万個のセンサが作製できる。高活性触媒に含まれるパラジウム（Pd）も、一センサ当たり0.8mg程度なので、コストは十円以下である。同エチレンセンサは小型、省電力であり、情報（ビツクデータ）を集積・ネットワーク化するセンサデバイスで低コストで設置可能。農業・食品業界のSo ci et y 5・0実現への取り組みを推進する。さらに、別の高活性触媒を設計し、エチレン以外のガス分子に対応する小型センサの開発も進める考えだ。

「JXTGグループ／組織改正」（六月二十五日）①合同部化▽「秘書部」・「経理部」・「財務IR部」・「未来事業推進部」従来以上に迅速な意思決定・機動的な業務執行を実現し、抜本的な構造改革を推進するために、JXTGホールディングスおよびJXTGエネルギーの経営を一体化し、実質的な事業持株会社として運営することから、管理部門を合同部とする。なお、合同部化にあたり、JXTGエネルギーに「財務IR部」と「未来事業推進部」を設置するとともに、秘書室の名称を「秘書部」に改める②JXTGホールディングスとJXTG金属との「監査事務室」の合同部解消▽JXTG金属の監査役事務部を設置することから、合同部を解消する。

「旭化成関連・役員人事」（六月一日）「旭化成アミダス」▽社長内炭広志▽解兼任社長、代表取締役会長橋爪宗一郎「旭化成アサクリンアメリカズ」※六月一日付社名変更（旧サンプラスチック）▽社長富江信弘▽退任（社長）松木宏「旭化成塑料（常熟）有限公司」▽董事長山口伸浩▽董事・総経理利光伊知朗「旭ケミテック」▽社長西政明▽退任（社長）宝田博良「旭小津」（六月十八日）▽代表取締役前田栄作▽退任（代表取締役）中嶋康善。

「JXTGグループ・役員人事②」（六月二十五日）▽ENEO SHホールディングス取締役（常勤監査等委員）、ENEO S監査役（常勤）加藤仁▽同社同（同委員）、同社同（同）太内義明▽同社社外取締役（監査等委員）岡俊子▽退任（JXTGホールディングス取締役（常勤監査等委員）JXTGエネルギー監査役（非常勤）中島祐二▽同（同社社外取締役（監査等委員）高橋伸子▽JXTG石油開発監査役（常勤）藤山和久▽JXTG金属監査役（常勤）朝妻克也。

世界のナフサ、オレフィンスポット価格動向

(単位:ドル/t)

DATE	ナフサ		エチレン						プロピレン				ブタジエン					
	ジャパン	NWE	アジア		USガルフ		NWE		アジア		NWE		アジア		USガルフ		NWE	
2019年8月下旬	465	444	887	916	388	406	926	967	917	992	930	953	1183	1250	794	889	860	880
9月上旬	473	456	870	895	444	471	949	971	900	960	856	874	1190	1275	827	904	850	870
下旬	523	502	803	880	543	562	943	956	890	973	842	856	1180	1250	860	893	850	870
10月上旬	501	480	725	775	543	623	936	940	885	963	838	851	1110	1225	838	860	845	845
下旬	523	495	665	720	491	491	868	879	880	933	841	870	1030	1090	816	849	855	855
11月上旬	525	519	743	770	438	491	852	869	870	905	821	840	905	975	739	783	835	835
下旬	545	532	807	830	468	485	816	844	823	860	792	827	850	917	610	654	758	792
12月上旬	562	540	730	755	422	422	750	800	790	830	751	798	920	970	750	794	743	780
下旬	571	544	730	750	342	353	750	800	770	820	751	798	920	950	750	794	755	780
2020年1月上旬	572	541	765	780	370	381	750	800	815	870	817	845	920	950	860	882	760	783
下旬	540	520	830	857	406	441	819	844	853	933	882	898	943	970	886	930	777	790
2月上旬	484	472	740	803	342	364	800	833	730	828	878	901	885	925	937	1025	765	775
下旬	473	459	690	725	294	318	784	805	755	808	876	898	725	780	899	987	753	765
3月上旬	373	346	653	678	290	297	728	758	745	810	904	931	725	775	860	926	765	783
下旬	228	170	530	565	220	226	608	642	615	695	861	884	640	720	662	728	575	615
4月上旬	193	143	400	470	176	187	500	520	540	608	662	676	410	490	397	452	393	458
下旬	200	134	353	395	210	211	250	275	630	700	594	611	310	395	320	375	285	338
5月1週	235	185	450	490	201	270	250	275	700	720	551	564	310	400	287	309	215	215

世界のBTX・SM・PHスポット価格動向

(単位:ドル/t)

DATE	ベンゼン				トルエン				キシレン				スチレンモノマー				フェノール	
	アジア		USガルフ		アジア		USガルフ		アジア		USガルフ		アジア		USガルフ		アジア	
2019年8月下旬	669	670	768	768	653	655	684	685	697	698	725	725	977	978	915	927	900	943
9月上旬	698	699	734	772	664	666	696	696	699	700	694	695	1021	1022	910	921	895	975
下旬	724	725	772	772	680	682	771	771	678	699	730	730	989	990	914	925	980	1030
10月上旬	669	670	729	729	667	669	741	741	691	692	720	720	948	949	897	908	960	990
下旬	644	645	679	680	634	636	714	714	671	672	711	711	886	887	835	846	890	935
11月上旬	623	624	661	661	630	632	724	724	684	685	714	714	846	847	797	808	860	895
下旬	654	655	696	697	657	659	731	731	695	696	730	730	825	826	779	791	820	863
12月上旬	712	713	738	738	678	680	715	715	697	698	712	713	862	863	785	796	830	905
下旬	735	736	760	760	684	686	684	685	693	694	690	691	873	874	815	826	820	900
2020年1月上旬	733	734	775	775	689	691	706	707	701	702	687	688	868	869	819	830	835	915
下旬	714	715	782	782	667	669	731	731	676	677	731	731	888	889	831	842	907	983
2月上旬	668	669	780	780	591	593	726	726	605	606	717	717	806	807	774	785	900	980
下旬	639	640	732	732	587	589	712	713	603	604	714	714	788	789	759	771	835	915
3月上旬	571	572	661	662	505	507	578	578	547	548	575	575	765	766	684	695	785	845
下旬	371	372	361	361	328	330	335	335	392	393	335	335	561	562	432	443	685	750
4月上旬	296	297	316	316	274	276	287	288	363	364	302	302	567	568	422	433	575	630
下旬	327	328	257	258	296	298	292	292	410	412	322	322	568	569	517	523	615	740
5月1週	365	366	317	317	329	331	344	344	386	387	350	350	584	585	611	613	680	800